

## ◎用語説明

用語	説明
あ行	
アーティストインレジデンス	国内外の芸術活動・創作活動を行う人を一定期間ある土地に招聘し、その土地に滞在しながら地域との交流を通じて、作品制作を行わせる事業のこと。地域活性化のユニークな取組みの一つとして注目されている。
インセンティブ	ある目標を達成するために、人々の意思決定や行動を変化させるような動機付けのこと。
インキュベーション機能	創業を目指す人、創業間もない企業及び新分野へ展開しようとする企業に対して不足する資源（ソフト支援サービスや、低賃料スペース等）を提供し、その成長を促進させる機能のこと。
インフラ	産業や生活の基盤として整備される施設のことであり、道路・鉄道・上下水道・送電網・港湾・ダム・通信施設などの総称のこと。
エネルギーマネジメントシステム（EMS）	エネルギーマネジメントシステムは、「エネルギー方針及びエネルギー目的を確立する、相互に関連した、又は相互に作用する要素の集合、並びにそれらの目的を達成するためのプロセス及び手順」。略して、EMS(Energy Management System)。
エネルギーの見える化（EMS）	企業や家庭で消費している電力量を計測し、その結果をパソコンなどの機器を通して目でわかるようにするエネルギーマネジメントシステムのこと。見える化により、現時点でのエネルギー消費を日別、週別に把握できると共に、対策の効果を把握出来る。
温室効果ガス	大気圏において、地表から放射された赤外線の一部を吸収することにより、温室効果をもたらす気体の総称のことであり、これらの増加によって地球温暖化がもたらされている。温室効果ガスには、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、フロンガスがある。
か行	
協働	市民等と行政が一体となり、まちづくりを進めることや、地域での問題点などを解決していくこと形態のこと。
建築環境総合性能評価システム（CASBEE）	建築物を環境性能で評価し格付けする手法のこと。省エネルギーや環境負荷の少ない資機材の使用といった環境配慮のほか、室内の快適性や景観への配慮等も含めた建物の品質を総合的に評価するシステムのこと。
公共交通	路線バス、鉄道、地下鉄、都市モノレール、路面電車など不特定の人々を大量、かつ、効率的に運ぶことのできる交通手段のこと。
高効率機器	エネルギーの消費効率に優れた機器の総称のこと。従来の機器に比べて、設備費は高いが、二酸化炭素排出削減量やランニングコストの面で優れている。
交通結節点	異なる交通手段（場合によっては同じ交通手段）を相互に連絡する乗り換え・乗り継ぎ施設のこと。具体的な施設としては、鉄道駅、バスターミナル、自由道路や階段、駅前広場やバス交通広場、歩道などがある。
コージェネレーション	ガスエンジン等で発電して、発電に伴う排熱を用いて給湯や空調などの熱を配給するエネルギー効率の高い熱電併給システムのこと。
コーホート要因法	年齢別人口の加齢にともなって生ずる年々の変化をその要因（死亡、出生、および人口移動）ごとに計算して将来の人口を推計する方法のこと。
コーポラティブハウス	入居希望者が集まり組合を結成し、組合が事業主となって、土地の取得から建物の設計、工事の発注など、建設行為の全てを行い、集合住宅（マンション）を建て管理していく方式のこと。
コミュニティサイクル	レンタサイクルの形態のひとつで、まちの一定範囲内で、至るところに設置してある自転車を好きな場所で借りたり、返却することができる新しい交通手段のこと。

用語	説明
コミュニティ	同じ地域や組織、あるいは、同じ趣味・思考等において深く結びついている人々の集まりのこと。
さ行	
再生可能エネルギー	有限で枯渇の危険性を有する石油・石炭などの化石燃料や原子力と対比して、太陽光、太陽熱、水力、バイオマス、風力、地熱、波力等、自然環境の中で繰り返し起こる現象から取り出すエネルギーの総称のこと。
次世代自動車	運輸部門からの二酸化炭素削減を目的とした、ハイブリッド自動車、電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、燃料電池自動車、クリーンディーゼル自動車、天然ガス自動車等のこと。
小水力発電	一般河川、農業用水、砂防ダム、上下水道、工業用水など、落差と流量のあるところで導入可能となる 1000kW 以下の小規模の水力発電のこと。RPS 法（電気事業者による新エネルギー等の利用に関する特別措置法）の対象となっている。
スマートコミュニティ	情報通信技術（ICT）を活用しながら、電力、熱、水、交通、医療、生活情報など、あらゆるインフラの統合的な管理・最適制御を実現した社会全体のスマート化を目指すコミュニティのこと。
市街地再開発事業	都市再開発法に基づき、市街地の土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新を図るために、建築物及び敷地の整備とあわせて公共施設の整備を行う事業のこと。
た行	
太陽光発電	太陽の光エネルギーを、太陽電池を用いて直接電力に変換する発電方式のこと。ソーラー発電とも呼ばれる。
太陽熱利用	太陽の光エネルギーが集熱器へ照射することで発生する熱エネルギーで水などを温めて利用するシステムのこと。給湯や暖房などに多く利用されている。
中心市街地	商業・業務・住居などの都市機能が相当程度集積しており、その存在している市町村の中心として役割を果たしている市街地のこと。
超小型 EV	自動車よりコンパクトで小回りが利き、環境性能に優れ、地域の手軽な移動の足となる 1 人～2 人乗り程度の電気自動車のこと。
都市機能	都市に必要なとされる様々な働きやサービスのことで、居住、商業、業務、工業、交通、政治、行政、教育、福祉、医療などの諸活動によって担われる。
都市計画道路	都市計画法に基づき計画された道路のこと。都市の骨格を形成し、安心して安全な市民生活と機能的な都市活動を確保する都市交通における最も基幹的な都市施設のこと。
は行	
パーク＆ライド（P&R）	都市中心部の道路混雑の緩和や環境負荷の低減、公共交通機関の利用促進を目的として、自動車で駅等に隣接した駐車場まで行き、そこに自動車を駐車し、鉄道、バス等の公共交通機関に乗り換える方式のこと。
バイオマス	生物資源（bio）の量（mass）を表す概念で、再生可能な生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもののこと。バイオマスの種類には、①廃棄物系バイオマス（食品廃棄物・廃材等）、②未利用バイオマス（稲わら・麦わら等）、③資源作物（サトウキビ等）がある。

用語	説明
バリアフリー	高齢者や障害のある人が社会生活をしていく上で障壁（バリア）となるものを除去すること。もともとは段差解消などのハード面の意味合いが強いが、現在では、高齢者や障害のある人の社会参加を困難にしている社会的・制度的・心理的なすべての障壁の除去という意味も含んでいる。
ビルエネルギーマネジメントシステム（BEMS）	電力使用量の可視化、節電の為に機器制御、再生可能エネルギーや蓄電池の制御等を行うシステムをEMS（エネルギー管理システム）といい、HEMSは家庭内、BEMSはビル内のエネルギー管理のこと。
ホームエネルギーマネジメントシステム（HEMS）	
ヒートポンプ	ヒートポンプ（HP）とは、大気や地中からの熱を圧縮機と膨張弁を使い効率よく移動させることによって、冷却や加熱を行なうシステムのこと。エアコンや冷蔵庫に多く使用されている。
ヒートアイランド	都市の中心部の気温が郊外に比べて島状に高くなる現象のこと。空調器等から出される排熱や自動車の排熱や人工的な被覆（アスファルト等）の増加により引き起こされると考えられている。
ファサード	建物の正面のこと。一般的には玄関のある面を指すが、外観として重要な面であれば、側面または背面もファサードと呼ぶ場合がある。
ポケットパーク	道路沿いや街区内の空き地など、少ない面積の土地を利用した小さな公園又は休憩所のこと。地域の生活環境の向上を図り、気軽に休める憩いの場所。
ま行	
モビリティマネジメント（MM）	多様な交通施策を活用し、個人や組織・地域のモビリティ（移動状況）が社会にも個人にも望ましい方向へ自発的に変化することを促す交通政策のこと。具体的には、公共交通や徒歩、自転車の利用を誘導するための情報提供やコミュニケーションを行うことで、自動車からの自発的な行動の転換・促進を図る。
や行	
用途地域	都市計画法の地域地区のひとつ。都市機能の維持・増進や住環境の保全等を目的とした土地の合理的利用を図るため、建築物の用途・容積率・建ぺい率及び各種の高さについて制限を行う地域で、住宅系・商業系・工業系など12種類に区分して定める。
ユニバーサルデザイン	高齢者・障害者等が社会生活をしていくうえで障壁（バリア）となるものを除去（フリー）すること。物理的、社会的、制度的、心理的な障壁、情報面での障壁などすべての障壁を除去するという考え方のこと。
A～Z	
ICT	Information and Communication Technology の略で、情報処理および情報通信に関連する諸分野における技術・産業・設備・サービスなどの総称のこと。情報通信技術のこと。
EV	Electric Vehicle の略で電気自動車のこと。
EVステーション	電気自動車用の充電サービスを提供する施設のこと。
ESCO事業	エネルギーを大量に消費する施設を対象に、ビルオーナーに省エネルギーの提案、施設の提供、維持・管理など、包括的なエネルギーサービスを提供し、ランニングコストを下げるかわりに軽減した電気代などの光熱費、水道料金から一定の割合を受け取るビジネスモデルのこと。